

長く門外不出で守られてきた山木屋三匹獅子舞。
その起源は、永禄年間（一五五八年～）頃とも
言い伝えられている。

唯一発見された最古の記録は
小太鼓に残された文政十年の印。
地域に深く根付き愛されてきた
三匹獅子舞の歴史をたどる。

山木屋八坂神社三匹獅子舞

永年の歴史

冷害や山の獣 追い払う獅子舞

山木屋八坂神社三匹獅子舞の
起源は、永禄年間までさかのぼ
ると地元山木屋では言い伝えら
れている。

過去の「宿」の度重なる火災
などにより、三匹獅子舞の記録
の多くは消失してしまったため、
現在では詳細な歴史を辿ること
は困難な状況だ。しかし、獅子が
舞に使う小太鼓の胴に文政十年



【小太鼓に文政十年の修理印】

昭和37年

祭礼期日を新暦10月1日とする

昭和39年

川俣町無形文化財に指定される

昭和42年

山木屋三匹獅子舞保存会を結成する

昭和42年12月

伊勢神宮へ奉納する（下組）

昭和43年3月

明治神宮へ奉納する（上組）

平成5年10月

伊勢神宮式年遷宮奉祝行事（上組）



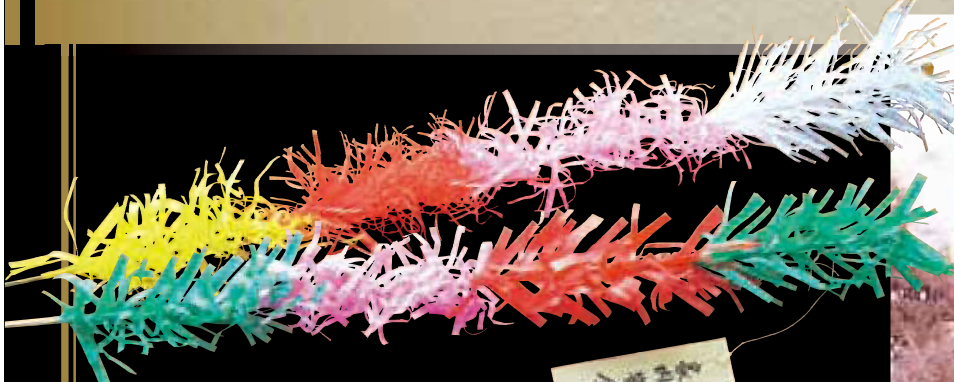
「生きる場所」にこそ存在する三匹獅子舞



福島県文化財保護審議会委員
懸田 弘訓さん

山木屋の獅子舞を初めて拝見したのは、50年程前になります。福島県内には約250の獅子舞が存在しますが、間違いなくこの獅子舞は、県を代表する獅子舞の一つです。大きな特徴の一つは、笏の形状です。本来、笏は30センチほどの竹を両手に持ち、こすり合わせて音を鳴らす楽器ですが、山木屋の笏は一方がとて大きく、「千本」が数百本も飾られています。先人の多くの願いが感じられます。また、集落の人々が一人残らず宿に集い、一日がかりで準備を進める光景は、今や、この山木屋でしか見ることができない貴重な光景です。先祖伝来の宝物を、大切に守られてきた地域の絆をぜひ誇りに思ってください。今回、7年ぶりの奉納を拝見させていただきました。地域のみなさんの苦労は計り知れないものだったでしょう。しかし、この獅子舞をきっかけに、人々がつながり、助け合う場所、まさに「生きる場所」を再びつくりあげ、地域の宝物を末永く継承されることを心から願っています。もちろん、とても大変な道のりだと思いますが、これまでも、人が「生きる場所」でこそ、三匹獅子舞の伝統は継承され、三匹獅子舞が存在するからこそ、人と人が力を貸し合う「生きる場所」が守られてきたのです。今後も様々な難題を一つずつ乗り越え、新しい歴史を築いていってください。

(一八二七年)の修理印が残されていたことから、少なくとも190



▲笏に取り付けられている「千本（せんぼん）」は、「千穂」と表されることがあるように、稲穂をかたどった形をしている。五穀豊穡はもちろん、無病息災などの願いが込められ、祭中、引き抜いて地域の人々に手渡される。

平成8年
祭礼期日を10月の第一日曜日とする

平成23年
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故による避難により奉納を中止する

平成25年10月
伊勢神宮式年遷宮奉祝行事（下組）

平成29年10月1日
避難指示が解除されたことにより7年ぶりに八坂神社へ奉納する

つまり、五穀豊穡はもとより、獣を追い払う力強い姿が舞に込められているのである。



伊勢神宮奉納（昭和42年12月）記念碑は、三匹獅子の歴史を静かに物語るかのように鳥居横に構える。

子舞特有の踊りは、その起源からひも解くことができる。そもそも高冷地である山木屋は、古くから冷害などの影響で、幾度となく区作に見舞われてきた。そのうえ、丹精込めて実らせた農作物も、山の獣に荒らされ、ほとほと困り果てた住民が、山木屋の総鎮守である八坂神社に獅子舞を奉納し、神様に豊作と悪霊払いを祈願したことが山木屋八坂神社三匹獅子舞の始まりと言われる。

そして、初めて八坂神社に三匹獅子舞が奉納されて以来、その舞は、地域の五穀豊穡を象徴する舞として、親から子へ、子から孫へと脈々と引き継がれ、地域の誰もが愛し育てる伝統芸能へと発展してきたのだ。

今回、長い歴史の中でも、唯一の空白期間となった7年間で、乗り越え、故郷に帰った三匹獅子舞。永年の歴史を地域の人々と歩んできた獅子の目に、いまの故郷の景色は、どのように映ったのだろうか。そして、どんな未来を願っているのだろうか。

年以上前から、この三匹獅子舞が存在していたことが分かる。勇壮で華麗な踊りの中に、荒々しさをも備える山木屋の三匹獅子舞特有の踊りは、その起源からひも解くことができる。

そして、初めて八坂神社に三匹獅子舞が奉納されて以来、その舞は、地域の五穀豊穡を象徴する舞として、親から子へ、子から孫へと脈々と引き継がれ、地域の誰もが愛し育てる伝統芸能へと発展してきたのだ。

